

# 小豆島町 ふくしだより

地域が抱えているさまざまな福祉問題を地域全体の問題としてとらえ、  
みんなで考え、話し合い、協力して解決を図ることを目的としています。

「だれもが安心して暮らせる福祉の町づくり」



発行：社会福祉法人 小豆島町社会福祉協議会

本所 〒761-4411 香川県小豆郡小豆島町安田甲144番地90 ☎82-5318  
支所 〒761-4301 香川県小豆郡小豆島町池田2100番地4 ☎75-0018



この広報誌は共同募金の配分金で発行されています

# 福祉のまちづくりアンケート結果

## 調査の目的

福祉のまちづくりを推進するために、町内に在住する方が福祉についてのどのようなニーズをもっているかを調査した。

## 調査の対象者数と回答者数

調査対象者	障がい児（者）の介助者	障がい児・障がい者	要介護者等の介護者	高齢者のみの世帯（65歳以上）	一人暮らし高齢者（65歳以上）	就学前の子どもを育てている保護者
配付数	208名	208名	203名	535名	222名	118名
回答数	73名	100名	180名	507名	221名	113名
回答率	35.1%	48.1%	88.7%	94.8%	99.5%	95.8%

## 就学前の子どもを育てている保護者



回答者の84%が女性で30代64%、核家族が69%となっていた。

70%の人が子育てをする上で、小豆島町は育てやすい、どちらかといえば育てやすいと答えており、91%の人が受けているサービスにも満足している。

ただし、「子どもの遊び場が少ない41%」「子どもの遊び友達が少ない21%」など困っている点も見えてきた。どんな支援があればよいかとの質問には「各地区に一時預かりや学童保育がほしい」「病児保育をしてほしい」「雨の日でも子どもが遊べる場所がほしい」「遊ぶ場所、施設をふやしてほしい」などという意見もあった。全体的に、天候に関わらず、子ども

ものがびのび遊べる場所の確保や急用ができた時の一時預かりを望んでいる。働きながら子育てをしている保護者は、子どもが病気になる時の病児保育を希望している傾向がある。

同じ世代の子育てをしている人との交流は86%の人が参加したい、どちらかといえば参加したいと答えており、お年寄りとの交流する場への参加も71%の人が参加したい、どちらかといえば参加したいと答えていた。

## 一人暮らし高齢者（65歳以上）



回答者の83%が女性で年代は80代48%、70代37%と多い。

36%の人が「気楽でよい」「一人でもいい」などと答えている一方、42%の人が「将来が不安」「さびしい」「誰かと一緒に暮らしたい」などと答えた。なかには「仕方がない」と答えた人も20%いた。

持病がある、通院中が69%で、43%の人が自家用車やバイク、徒歩な

ど自分で通院しているが、今後、自分で行けなくなった時の交通支援を望んでいる。

不安なことは何かという問いには、「寝込んだ時、世話をしてくれる人がいないこと22%」「防犯や災害に関すること21%」「夜一人で寝ること10%」となっている。

日常生活で困っていることは「力仕事32%」「買い物16%」が多く、掃除・病院通い・移動手段などとなっている。

お年寄りどうしの交流は58%の人が参加したい、どちらかといえば参加したいと答えていたが、子育て中の親子との交流する場への参加は43%と過半数を割っており、どちらかといえば参加したくない、参加したくないと答えた人の方が多かった。

## 高齢者のみの世帯（65歳以上）



回答者の57%が男性で年代は70代54%、80代25%、60代21%となっていた。家族構成としては、82%が夫



婦のみである。

86%の家庭に通院中の人がおり、現在は64%の人が自家用車や自転車、徒歩など自分で通院しているが、一人暮らしの人と同様に今後、一人で行けなくなった時の支援を望んでいる。

日常生活で49%の人が「困っていることはない」と言う結果だったが、困っていることは、「力仕事19%」「買い物7%」が多く、病院通い・掃除・移動する手段となっている。

お年寄りどうしの交流は43%の人が参加したい、どちらかといえば参加したいと答えており、過半数を割っている。子育て中の親子との交流する場への参加は、38%とさらに参加したい、どちらかといえば参加したいと答えた人が少なかった。

## 要介護者等の介護者



回答者の77%が女性で年代は60代・70代とも27%、50代・80代が20%となっていた。家族構成としては、2世代世帯51%、夫婦のみ32%となっ

ており、老々介護の状況がうかがえる。

89%の人が、要介護認定を受けており、その中の86%の人がサービスに満足している、ほぼ満足していると答えている。ただし、介護保険制度について「もう少しサービスの回数を増やしてほしい33%」「利用料が高く利用しづらい19%」「制度に当てはまらないから利用できない13%」など不満な点も見えてきた。どんな支援があればよいかとの質問には「短期入院、障がいを持つ人のショートステイ」「透析をしている人のショートステイ」「急用時のデイサービス・ショートステイ」などという意見もあった。

介護をする生活の中で困っていることは「自分の自由な時間がない19%」「食事15%」「入浴14%」などとなっている。その他にも、「ストレスがたまる」「睡眠がとれない」などという意見もあった。

介護者向けの勉強会については66%の人が、介護者どうしの交流は62%の人が参加したい、参加したいができないと答え、どのような支援があれば参加できるかとの問いに、ほとんどの人が、見てくれる人がいればと答えている。介護者どうしの交

流に関しては、疲れている・話し合う余裕がないなど介護者がストレスを抱えている傾向が見える。

## 障がい児・障がい者



回答者の55%が男性で年代は50代18%、30代15%、20代・60代14%となっていた。

親と暮らしている人が多く、84%の人が障害者手帳の交付を受けており、84%の人が満足している、ほぼ満足していると答えている。ただし、不満な点を聞くと、介護保険制度と同じ回答が寄せられた。

56%の人が介助が必要である、一部必要であると答えており、介助者は家族が74%であった。また、その介助者が急用や病気などで都合が悪くなった場合には「他の家族に頼む36%」「施設や病院を利用する30%」と何らかの支援があると答えた人が大半だったが「頼める人がいない」と答えた人もいた。理由は様々だが、「緊急の時にすぐに対応してもらえない人材」「ショートステイの施設がほしい」という要望があった。

毎日の生活で困っていることは「食事を作ること17%」「金銭面15%」「力仕事12%」となっており、「買い物」「洗濯・掃除」「入浴」となっている。

## 障がい児(者)の介助者



回答者の76%が女性で年代は60代29%、70代22%、50代21%となっていた。2世代世帯の人が57%と過半数を占めている。受けているサービスの満足度、不満内容、介助者が急用の時どうしているかなどの質問には、障がい児(者)の人とほぼ同じ回答が寄せられた。

介助生活のなかで困っていることは54%が金銭面についてで、続いて、要介護者等の介護者と同じ自分の時間(買い物・病院・睡眠時間)がとれないといった意見も多かった。回答者の年齢から見て分かるように、親が介助をしていることが多く、介助者の体調不良を訴える回答もあった。

# 一人暮らし高齢者を励ます会実施について

## 22年度実績報告

開催日	会場
11月29日	木庄集会所
12月8日	浜条クラブ・サンシャイン 農村環境改善センター 西蒲生老人憩いの家 室生自治会館憩いの家 二生公民館 吉野地区集落センター 三都ふれあいセンター 南蒲野公民館 神浦コミュニティセンター
12月10日	福田公民館
12月11日	西村中条地区集会所
12月12日	西村流地区集会所 神懸通集会所

今年度も各地区の皆さんにご協力をいただき、15会場で実施いたしました。その中の1会場をご紹介します。

神懸通民生委員 藤澤 栄子

3年前神懸通地区民生委員という大役を、任命されました。思うように動けなくて大変責任の重大さを感じております。出来る限り声かけをしたり、買物に行く姿を見ると安心してます。

毎年12月になると小豆島町社会福祉協議会の方から、77才以上の一人暮らしの方を対象にプレゼントを、配布しております。

今回、楽しいことを計画しようと考え、神懸通地区では、自治会、民生委員、福祉委員、老人会の方々のご協力でお食事を実施いたしました。

昨年12月12日、神懸通集会所で実

施したところ約85%の該当の方が、笑顔で参加してくださいました。また、足の不自由な方等はお手伝いの人がお迎えに行きました。ささやかではありましたが、非常に喜ばれ私たちも輪の中に入り楽しいひとときでした。

材料等提供される方もおられ、嬉しく料理をさせていただきました。嬉しく3時間でしたが、とてもお話しが弾み、笑顔でなごやかに過ごされとても楽しい時間をもつ事が出来ました。参加者の中には、涙を浮かべながら「ようしてくれてありがとう」とおっしゃってくれたおばあちゃんがおられ、とても胸が熱くなりました。

今回のような事を、年に数回実施して欲しいという方が、たくさんいらっしゃるといふ事を今回改めて感じました。

現在、高齢者社会を迎えている日本、特に香川県小豆島、過疎化が進み、これから考えていかなければいけない事は、安心して健康で充実した生活が出来るよう、近所同士が声をかけあい、助けあい一人暮らしの連帯意識をみんなが高めていきたいものです。



## 介護予防に向けて

# 「生きがい・健康づくり」の会の取り組み

福祉社会という言葉が身近になって久しくなります。小豆島も人口減少・高齢化と日本の近未来の縮図を呈してきました。そこで、当地区では自分たちでできることは自分たちでをモットーに三好禮子前民生委員の発案で6年前から町の理学療法士・保健師・栄養士・運動指導員・音楽療法士等各氏のご指導・ご協力のもと、月1回「生きがい・健康づくり」の会を開催しています。

毎回脳トレと体力維持として体操、大きな声で歌を歌うなど約2時間、年齢層も50代から80代と幅広く親交を深めながら自分たちでできることを続けています。

自己満足に陥らないように講師の方からは、新しい情報をお話ししていただいています。

時季によってフラワーアレンジメントや小学生たちとの会食、また、敬老の催しにも参加し、12月には、「一人暮らしの老人を励ます会」を婦人部の応援を得て実施しています。

月1回の集いですが心待ちにしている

平成22年度

## 「生きがい・健康づくり」の会 実施表

活動日は毎月次の通りとする 講師招聘月 第2金曜日  
自主活動日 第2土曜日

開催月	内容	講師名
4月	「フラワーアレンジメント」	保健師
5月	「頭の体操と体の体操」	自主活動
6月	「楽しく歌ってほけ防止」	音楽療法士
7月	「頭の体操と体の体操」	自主活動
8月	情報と「熱中症予防について」	役場/保健師
9月	「頭の体操と体の体操」	自主活動
10月	「栄養指導と調理実習」	管理栄養士
11月	「頭の体操と体の体操」	自主活動
12月	「頭の体操と体の体操」	自主活動
1月	「楽しく歌ってほけ防止」	音楽療法士
2月	「お話と体操」	運動指導員
3月	「頭の体操と体の体操」 「次年度の活動内容の相談」	自主活動



人も多く、今後、年齢層を広げ「介護予防」を浸透させて高齢化に適応し充実した人生が送れるよう共に歩みたいものです。平成22年度の実施事項は次の通りです。

西村中条自治会 会長 藤原輝之



## あいさつボランティアをして思うこと

小豆島町立池田小学校 6年 伊賀 千恵

私が通う池田小学校では、毎朝数10人の人が正門の前に立って『おはようございます』と気持ちのよいあいさつをしています。私も6年生になってこのボランティア活動に参加するようになりました。私は、ボランティアの一人として最近残念に思うことがあります。それは、時々あいさつをしてもあいさつを返してくれない人がいることです。お互いにあいさつし合うと気持ちがいいのと思います。

全員があいさつをして気持ちのよい朝にするために、児童会の企画で毎月8のつく日を『おは(8)ようデー』とし、月ごとに学年を替えて正門に立ってあいさつをするという活動もあります。ボランティア同様大勢であいさつしているととても気持ちのよい朝を迎えられます。

その他、ボランティアに参加してくれた人にかわいいイラストの入った『にこにこバッジ』が児童会役員から渡されます。もらった人は、制服につけたり、筆箱につけたりしています。その効果は低学年に広がり学年を越えたボランティア活動になっています。

私がこの活動に参加しようと思ったわけは、あいさつが人と人との関わりの中でとても大切だと感じたからです。した人もされた人もさわや



かな気持ちになると思います。私は、学校だけでなくいろいろな場所でもあいさつを積極的にしていきたいです。

私は、もうすぐ卒業ですが下級生たちがこれからも池小あいさつボランティアを続けてくれることを願っています。そして、池田小学校に気持ちのいいあいさつの輪が広がればいいと思います。

残り少なくなった小学校生活ですが、私も大きな声であいさつをして、一人でも多くの方がボランティアに参加して、あいさつが大切だということに気づいてもらいたいです。

## ふれあいワークキャンプに参加して

小豆島町立池田中学校 1年 村本 千紗

池田中学校では、毎年ボランティアで、介護老人保健施設「豊寿園」を訪れ、ふれあいワークキャンプが行われています。私は、小学6年生の時に学校行事の一环で豊寿園へ見学に行く予定だったのですが、インフルエンザが流行していたため行けませんでした。そして、中学校に入學し、夏休みに豊寿園で介護体験をするという学校ボランティアの行事があることを知り、「これは是非行ってみたい」と思い参加しました。

ワークキャンプでは、入浴介助やリハビリのお手伝いをする介護体験、昼食の準備、レクリエーションなどを行いました。

私は、このふれあいワークキャンプでとても印象に残ったことが二つあります。まず一つ目は、高齢者の方々とたくさんふれあえたことです。始めは、「どんなふうにかんげいのか？」とか「相



手の人と仲良くなれるかな？」など不安なことはたくさんありましたが、その不安を打ち消してくれ、皆さんが優しく、私のことを孫のようにかわいがってくれたので、とても楽しく接することができました。

二つ目は、介護のことで色々な経験ができたことです。「お風呂に入るときは、優しく洗ってあげる」だとか、「車椅子で移動するときには、肘や足がきちんと乗っているかを確認をする」など、介護をする上で大切なことを豊寿園の職員の方々から教わりました。

この活動を通して、滅多にできない経験をすることができ、また、介護の仕事のことを考えて行動することの大切さを学びました。来年もまた、このワークキャンプに積極的に参加したいと思っています。



# 社会保障と地域社会

## 社協の役割と期待



小豆島町長 塩田 幸雄  
私の厚生労働省での仕事は、年金、医療保険、介護保険、介護保険

険などの社会保障を、制度として、どうしたら持続可能性を高めることができるかということでした。少子高齢化が進み、人口が減り、経済発展が停滞するなかで、それは必要不可欠なことです。国民的には不人気な仕事でした。その意義を私自身、厚生労働省のとき必ずしも理解していなかったように思います。

町長になってはじめて、社会保障を制度として、持続可能性を高めることの意義が少しわかったように思います。社会保障制度がなかったり、役割が大幅に縮小された場合を考えればわかります。年金制度がなければ、地方はもったいなく衰退していただろう。医療保険や介護保険制度がなければ地方自治体は、医療や介護を保障することができず、大混乱になるでしょう。

これまで国にも財源のゆとりがありません。今は、財政赤字で四苦八苦しています。そういうなかで社会保障を制度として持続可能性を高める魔法があるわけがありません。みんなで譲り合って合意をする以外ありません。

全国一律の社会保障制度は、すべての医療や福祉のニーズに配慮するものではありません。社会保障制度は、全国共通の基本的なニーズや重たいニーズに対応すべきものです。

社会保障制度では、カバーできない福祉がいくつかあります。自治体では、介護保険など社会保障でカバーできない福祉をどう実現するかも考えなければいけません。例えば、車を利用できない高齢者がどうしたら買い物などに行くことができるか、地域の状況にあわせて考えていく必要があります。

社会保障を基礎にしながら、それにどんな助け合い、支え合いを重ねていけるか、それぞれの自治体の力、地域の力が問われています。

社会にとって、大切なもの、なくてはならないものは、自分の力で頑張ろうと思う気持ち、家族や地域での助け合いや支え合い、地域で高齢者がいつまでも元気で健康でいられるような取組み、近所の子どもたちの育て・育ちの応援など、地域のさまざまな活動であると思います。日本が少子高齢化や人口減少を克服できるかどうか、こうした人の力、地域の力を取り戻せるかどうかにかかっています。社会福祉協議会の役割は、まさに人の力、地域の力をひきだすことにあるのだと思います。

### 平成22年度 共同募金結果報告

みなさまの温かいご支援、ご協力により多くの善意が寄せられました。心から感謝申し上げますとともに、募金結果をご報告いたします。今後も引き続きご協力くださいますようお願い申し上げます。

	内 訳	金額(単価:円)
募 金	戸別募金 (自治会募金)	4,666,100
	法人募金	175,000
	職域募金	270,000
	計 (香川県共同募金会へ)	5,111,100
配分	香川県共同募金会から	4,019,650

### 平成22年度 小豆島町社協会費報告 (平成23年 1月31日現在)

《一般会費》  
**1,287,800円**  
《賛助会費》  
**1,302,000円**  
ご協力ありがとうございました。

### あたたかな善意を ありがとうございました。

自 平成22年7月1日  
至 平成23年1月31日

寄 付 件 数 **18件**  
寄 付 合 計 金 額 **618,650円**

#### 寄付にご協力お願いします

社協の財源の一つが、みなさまから寄せられる会費や寄付金です。こうした財源は社協の事業を行う上で大きな支えとなっています。金額の多少を問わず、年間を通じて受け付けております。どうぞお気持ちをお寄せください。

社会福祉事業へのご寄付は寄付金控除の対象となります。

ご寄付いただいた方の氏名は町広報にて掲載しておりますのでご覧ください。